

④新規用途開拓による地域農林水産物の需要拡大、ブランド向上

群馬県産有機こんにゃく芋等を活用した低カロリー・低糖質な「有機乾燥こんにゃく米等」の開発、製造と販売事業

グリーンリーフ(株)が有機・慣行こんにゃく芋の栽培を行い、こんにゃく精粉として提供し、(株)オハラが乾燥こんにゃく米を開発、製造し、販売を両社で行う事業。

➤ 連携体

農林漁業者 **グリーンリーフ株式会社(法人番号2070001023388)(農業)**

需要が減少している産地を再生していくために有機・慣行こんにゃく芋の栽培を行い、提供していく。

中小企業者 **株式会社オハラ(法人番号6220001001688)(食品製造業)**

群馬県産有機・慣行こんにゃく芋から「有機乾燥こんにゃく米等」の開発、製造と販売

➤ 連携の経緯

(株)オハラは、こんにゃくの製造および販売で1959年に創業しているが、こんにゃくの需要が減少する中でゼリーなどの商品開発も進めていた。しかし独自開発したタピオカ風粒こんにゃくが時流にも乗り爆発的にヒットしたことで、こんにゃく関連商品へ回帰し、乾燥こんにゃく米の開発に取り組んできた。

また一方、群馬県産のこんにゃく芋は後継者不足やこんにゃく製品の消費量の減少により生産高が減少している。さらに有機栽培は、非常に手間がかかるため有機こんにゃく芋を栽培する担い手も同様に減少している。グリーンリーフ(株)はこのようなこんにゃく芋栽培を取り巻く環境に憂いを感じ、国内消費が落ち込むのであれば世界の販路へ目を向けるしかないと言産地を守るためにヨーロッパへの販路開拓、販路の拡大を続けてきた。

そんな折に(株)オハラから乾燥こんにゃく米という商品開発にあたって協力し合うことができないかと提案があり、群馬産地を守るためにも、こんにゃく芋の栽培・こんにゃく製品消費の拡大を両社で目指すことになった。

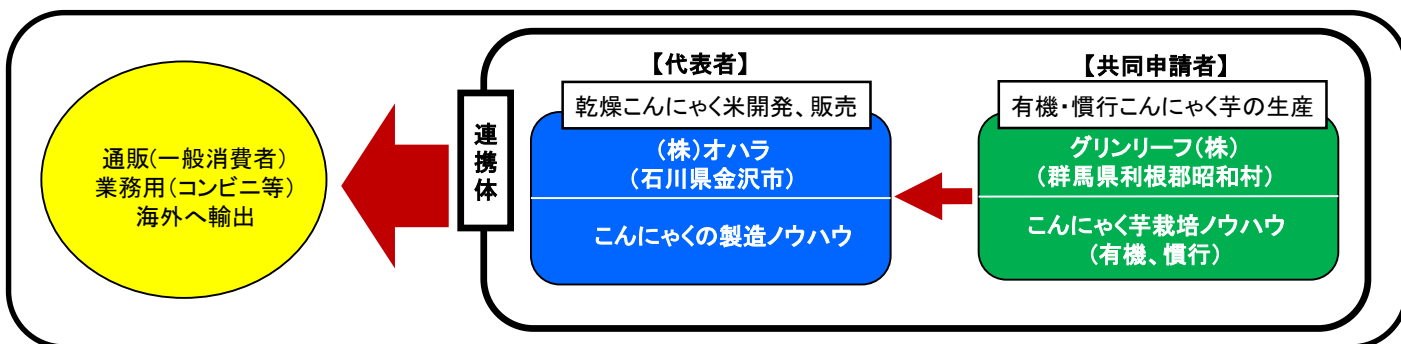


乾燥こんにゃく米イメージ

➤ 連携に当たった課題や工夫等

現在国内で販売されている乾燥こんにゃく米は、インドネシア産であり、通常のしらたきを製造してから乾燥させた乾燥こんにゃく米である。この乾燥には膨大なエネルギーと作業時間が課題となっている。

今回の乾燥こんにゃく米は、製麺技術を応用した「こんにゃく米製造機」をオハラ独自の工夫、ノウハウにより一部改良・導入し製造する。この機械は水分率を効率的に下げる機能を持ち、コスト面での問題や、分解洗浄が可能など製品の安全性の問題もクリアできる。



➤ 連携による効果

農林漁業者 **こんにゃく芋の生産、販売によって、5年後に3,400万円の売上を目指す。**

有機こんにゃく芋の栽培を再開し、慣行栽培のこんにゃく芋も合わせて生産し提供していくことで売上が増加する。

中小企業者 **乾燥こんにゃく米の販売によって、5年後に1億5千万円の売上を目指す。**

国産のこんにゃく芋(有機、慣行)を活用した乾燥こんにゃく米を製造し、通販、業務用販売によって売上が増加する。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名 : 株式会社オハラ
TEL : 076-288-6572
E-mail : info@ohr.co.jp

所在地 : 石川県金沢市柳橋町甲14-1
FAX : 076-288-6573
ホームページ : <http://www.ohr.co.jp/>